

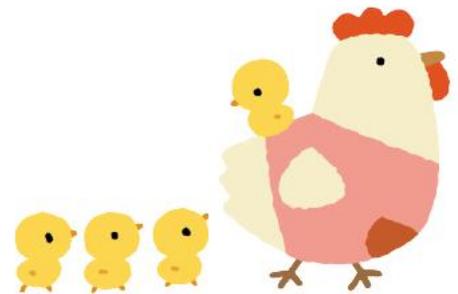
## ひかりの子のつぶやき

子どもたちと一緒に生活をしていると、パワーややさしさをもたらったり、ほんとうに大切なものは何なのかを考えさせられたり、保育者たちの心まであたたかくなったりすることがよくあります。ひかりの子どもたちのつぶやきをお聞きください。

(おかあさんが恋しくて泣いている友達に)  
「いいんだよ。悲しいときは泣いてもいいんだよ」

(保育者のひざに抱えられながら泣いている年少児を見て…)  
女の子「おかあさんがいないから泣いているの？」  
保育者「そう、〇〇ちゃん おかあさんが大好きなんだって。××ちゃんもおかあさんが大好きだよ」  
女の子「先生。やさしくしてあげてね」

(登園時に涙が出てしまう日が続いている年少児を見ながら)  
男の子A「今日も泣いてる」  
男の子B「そんなこと言うな。お前だっておかあさんに会いたくなるときがあるだろう」  
男の子A「…… (無言 何も言わない)」  
男の子B「だから、もう言うな」



(トイレからなかなか戻ってこない子どもを廊下まで見に行くと舌を出しながらうつ伏せで寝転んでいました。東公園のお散歩で見たへびの印象が強かったようで……)

保育者「Aちゃん 何してるの？」  
男の子「ボク、今、へびなんだけど、はやくいけないんだよ」

女の子「おねえちゃん 歯がぬけて喜んでるよ」  
保育者「大人の歯が生えてくるからうれしいんだね」  
女の子「違うよ。きれいな花がはえてくるんだよ」

(ちょっと聞き違いをしちゃったね)

(前日にバスの座席が隣同士のお友達と喧嘩をしてしまった翌日の男の子のことです)

保育者「どうしてお席に座らないの？」

男の子「だってさ、昨日、ボクのほうがわるかったんだ。だから、今日は〇〇くんを先にすわらせてあげるんだ」

(安全のためにとりあえず先に座ってもらいました)

(園外保育でお弁当を食べながらとっとうれしそうにはなしてくれました)

「おかあさんがね。『おかあさんのぶんまでいっぱい遊んで、いっぱい食べてね』ってつくってくれたんだよ」

(おもちゃ屋さんの店頭で並んでいた動くワンちゃんのおもちゃがほしくてたまらなかったのですが、「あれは赤ちゃんのおもちゃよ…」と買ってもらえませんでした。ある日、店頭からワンちゃんがいなくなっているのをみつけて、おかあさんにいいました)

「よかったね。どこかで赤ちゃんがワンちゃんと遊んでいるよ」

自分の名前の一部の漢字を読めるようになった A ちゃんは、バスの時間表(名簿)を見ながら「これがボクでしょう」とたずねてきました。「そうだよ」と答えると、A ちゃんの次に乗り降りする B ちゃんの漢字を見つけたくて「B ちゃんは、どこだ？どこだ？」と時間表とにらめっこをしているのを見て、当の B ちゃんは、「ぼくならここにいるよ」

(運動会のかけっこのとき「よ～い ドン」の合図があっても走り出さなかった男の子に)

保育者「どうしたの？」

男の子「ボク、暖機運転中なんだ」

(パパがオートバイ大好きな男の子)

ゆういちとゆうじは、大の仲良しでした。でも、ゆういちが、ゆうじを自分と同じゆういちという名前だと思っていました。だから、ゆうじに「おい、ゆういち 遊びに行くぞ」と言っていました。ゆうじも「おー」と答えて、自分の名前は、ゆうじ だとは言いませんでした。ある日、「自分の名前はゆういちではなくて ゆうじ だと言わなくていいの」とたずねると、「だってさ。ぼくたち友達なんだから、そんなことどうでもいいじゃない」

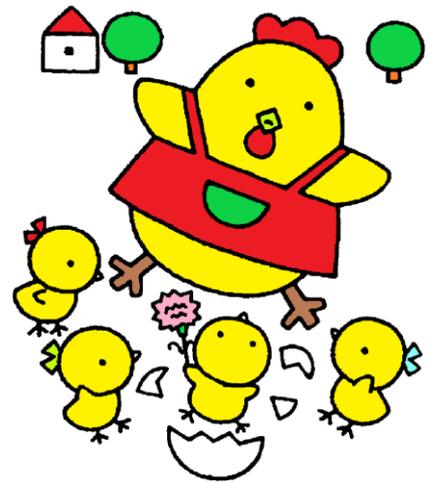
## ママたちから聞いたおはなし

「たっちゃんが幼稚園に行くとママさみしくなっちゃうな」  
「大丈夫だよ。なるべく(幼稚園から)早く帰ってくるから」

「ママはお家でおりこうさんでお留守番をしているからママのぶんまで楽しんできてね」

「いまごろ、何しているのかな？お友だちと一緒に笑っているといいな。ママはおやつを準備してお家で待っています。幼稚園のお話を聞かせてほしいな」

「かあちゃん、心配して損したわ」って思うぐらい楽しんできてね。



## 入園前のおはなし

「寝る前、おふとんのなかでお名前を言ったり、(幼稚園での)ごあいさつの練習をしたりしていたでしょう。ママ、自分でも訳がわからないけれども涙がでてきちゃった。へんだね」

「笑いながら楽しそうに『もうすぐ幼稚園だね。お楽しみだね』『お友だちがはやくできたらいいのにね』って話しているけれども、本当は、もうすぐ、幼稚園に行っちゃうんだって思っているよ。さみしいな・・・」

## おとまり保育編

最後におとまり保育で聞かれたものです。自分の幼稚園のときにおとまり保育がなかった先生がゆり組さんたちをうらやましく思っていました。

(明るかった空が夕闇に変わり、不安とおかあさん恋しさのために泣き出した男の子を数人の友達が囲んで…)

「おれたちずっと一緒だよ。だから、もう泣くなよ」

お皿あらい係

「次から次へ(洗いもののお皿が)来るよ。たいへん。急いで」

「お皿洗い係だから、わたし、昨日お皿洗う練習してきたの」

「おかあさんって毎日こうやってくれているんだね」

キャンプファイヤーが始まりました。歓声があがり、歌を歌ったり、踊ったりしました。

「楽しいね。お母さんも見に来ればいいのにね」

先生 「今日はみんなでおとまりだね」

子ども 「先生も泊まれば」

先生 「先生も泊まるよ」

子ども 「なんで？」

先生 「みんなだけじゃさみしくない？」

子ども 「ううん、みんなで泊まるから大丈夫」

子ども 「先生たちは寝ないの？」

先生 「みんなが眠るまでおとなりにいるよ」

子ども 「先生 眠くないの？」

先生 「ちょっぴり眠いかな」

子ども 「じゃあ ボクの布団で寝てもいいよ」

(お布団のすみっこに移動して先生の場所をつくってくれました)



なかなか寝付けられない子どももいます。入れ替わり先生たちが横にきます。

子ども 「どうしてボクの横がいいの？」

先生 「だって、〇〇君のおとなりがいいもん」

子ども 「みんな ボクが『いい』って言うんだよ」

「ぼくがないから、おかあさん、さびしくないかな」

そろそろお迎えの時間です。みんなの大好きなひとがお迎えにきてくださる時間です。  
「またすぐ幼稚園にくるから」

こんな言葉を残して大好きなおかあさんと一緒に家路につきました。

子どもたちのおしゃべりに仲間入りしてみませんか。そして、ともに育ちあいましょう

**幼児期に楽しい毎日を・・・**